

平成30年度

教育功勞者功績概要

千葉県教育委員会

1 教育行政の部

我孫子市教育委員会教育長 倉部 俊治

平成25年、我孫子市教育委員会委員及び教育長に就任し、同27年及び同30年に教育長に再任し、現在に至る。卓越した見識と市職員としての豊富な行政経験を活かし、小中一貫教育の推進に取り組むとともに、ICT教育を推進するためのタブレット型端末の導入や小中学校へのエアコン設置など学習環境の整備に取り組んだ。また、生涯学習分野の振興にも貢献した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

白子町教育委員会教育長 牧野 敬一

平成23年、白子町教育委員会委員に就任、同25年には教育長に就任、同27年に教育長に再任し、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を生かし、同26年度より4年間文部科学省委託事業「系統性のある支援研究事業」の推進に尽力した。一方、千葉県町村教育委員会連絡協議会監事並びに副会長を歴任するとともに、千葉県競技力向上推進本部委員、人権擁護委員として幅広く活躍した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県教育庁企画管理部長 大塚 一朗

昭和58年、千葉県立国分高等学校教諭。県内高等学校教諭、千葉県総合教育センター充て指導主事、総務部学事課主査、教育庁県立学校改革推進課副主幹、千葉高等学校教頭、教育庁教育政策課教育立県推進室長を経て、平成25年、同県立学校改革推進課長。その後、教育庁教育政策課長、同教育総務課長、同企画管理部次長を歴任し、平成30年から現職。この間、教育行政に実績を上げ、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県教育庁教育振興部長 奥山 慎一

昭和56年、千葉県立千葉南高等学校教諭。県内高等学校教諭、教育庁振興課指導主事、同高校教育課管理主事、同総務文書課主査、習志野市立第七中学校教頭、教育庁教職員課主任管理主事、同人事室長を経て、平成22年、千葉市立稲毛高等学校長。その後、教育庁教育振興部副参事兼指導課学力向上室長、同教職員課長、同教育総務課長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県教育庁学校危機管理監 稲 葉 泰

昭和58年，館山市立第三中学校教諭。管内中学校教諭，館山市教育委員会学校教育課指導主事，教育庁学校保健課指導主事，同義務教育課管理主事，鴨川市立鴨川中学校教頭，鴨川市教育委員会学校教育課主任指導主事，同管理主事を経て，平成20年，鴨川市立鴨川中学校長。その後，教育庁教職員課免許室長，同特別支援教育課支援推進室長，同教育総務課委員会室長，同教育振興部副参事，同教職員課長，同教育総務課長を歴任し，平成30年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立中央博物館長 萩 原 恭 一

昭和56年，千葉県教育委員会文化課文化財主事。千葉県文化財センター，茂原市教育委員会に派遣。千葉県教育委員会文化財課主任文化財主事，国立歴史民俗博物館事業課展示係長，同課長補佐，同課長，教育庁文化財課文化財保護室指定文化財班長，同学芸振興室長，千葉県立中央博物館副館長を経て，平成29年，教育庁文化財課長。その後，平成30年から現職。この間，文化財振興及び教育行政に実績を上げ，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

2 学校保健の部

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校学校医 十 河 正 寛

昭和49年、鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校学校医に就任。以来現在に至るまで、学校医として、健康診断等を行うなど、児童の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、公益社団法人鎌ヶ谷市医師会理事、監事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立佐原小学校学校医 安 住 眞理子

昭和47年、佐原市立佐原小学校学校医に就任。以来、佐原市立佐原中学校等、佐原市内複数校、また、小見川町立西小学校等、小見川町内複数校の学校医に就任し、現在に至るまで、学校医として健康診断等を行い、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

銚子市立高神小学校学校医 嶋 田 久

昭和51年、銚子市立高神小学校学校医に就任。以来現在に至るまで、学校医として健康診断等を行い、児童の健康保持増進に積極的に取り組むなど、学校保健の重要性についての認識を持ち、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

芝山町立芝山小学校学校医 原 田 進 吾

昭和48年、芝山町立芝山小学校学校医に就任。以来、芝山町立菱田小学校等、芝山町内複数校の学校医に就任し、現在に至るまで、学校医として健康診断等を行い、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人山武郡市医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立若葉小学校学校医 鈴 木 斌

昭和52年、市原市立若葉小学校学校医に就任。以来現在に至るまで、学校医として健康診断等を行い、児童の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人市原市医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

八千代市立大和田中学校学校医 寺 島 市 郎

昭和52年、八千代市立大和田中学校学校医に就任。以来、八千代市立村上東小学校等、八千代市内複数校の学校医に就任し、現在に至るまで、学校医として健康診断等を行い、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人八千代市医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立越智中学校学校医 篠 崎 玄 幸

昭和51年、千葉市立土気小学校学校医に就任。以来、千葉市立越智中学校等、千葉市内複数校の学校医に就任し、現在に至るまで、学校医として健康診断等を行い、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人千葉市医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

習志野市立秋津幼稚園園歯科医 阿 部 有 司

昭和54年、習志野市立第五中学校学校歯科医に就任。以来、習志野市立秋津幼稚園園歯科医等、習志野市内複数の園、学校の歯科医に就任し、現在に至るまで、学校園歯科医として定期歯科健康診断を通して、園児児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また社団法人習志野市歯科医師会理事、専務理事、副会長、会長を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立河原塚小学校学校歯科医 佐 藤 圭 子

昭和54年、松戸市立河原塚小学校学校歯科医及び松戸市立河原塚中学校学校歯科医に就任。以来現在に至るまで、学校歯科医として定期歯科健康診断を通して、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人松戸歯科医師会理事、専務理事、社団法人千葉県歯科医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立高洲第一中学校学校歯科医 始平堂 弘 昌

昭和58年、千葉市立大宮台小学校学校歯科医に就任。以来、千葉市立高洲第一中学校等、千葉市内複数校の学校歯科医に就任し、現在に至るまで、定期歯科健康診断を通して児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人千葉市歯科医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立古ヶ崎小学校学校薬剤師 川 名 賢 二

昭和45年、松戸市立古ヶ崎小学校学校薬剤師に就任。以来現在に至るまで、学校薬剤師として卓越した知識と優れた技術を持って学校環境衛生検査を実施した。その結果に基づき、学校に指導及び助言を行うなど、本県健康教育の推進に寄与した功績は大である。

千葉県公立学校職員健康審査会委員 潤 間 励 子

平成15年、千葉県公立学校職員健康審査会委員に就任し、以来、15年の長きにわたり教職員の結核等の審査を行うなど、学校職員の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、公益財団法人ちば県民保健予防財団精度管理委員会健康診断・基準範囲検討専門委員会委員等を務め、疾病の早期発見並びに予防に尽力し、県民の保健予防の進展に寄与した功績は大である。

3 芸術・文化の部

(1) 個人の部

千葉県美術会常任理事 岡野重義

千葉県立高等学校において教鞭をとる傍ら、彫刻技術の向上に努める。千葉県美術展覧会（県展）では、美術会賞（昭和43年，同44年），県展賞（同45年），国画会展では新人賞（同51年）等を受賞。文化庁主催現代美術選抜展（昭和51年），現代日本具象彫刻展（同60年，平成10年）等にも作品を発表。昭和46年からは県展彫刻部門の審査員を務め，同53年には千葉県美術会理事，平成30年から現職。千葉県美術会役員として県展運営及び後進の育成に尽力し，本県の芸術・文化の進展に寄与した功績は大である。

千葉県美術会常任理事 大島婦美枝

五十嵐幹，松尾敏男に師事して日本画を学ぶ。千葉県美術展覧会（県展）では，昭和54年に千葉県美術会賞を，同56年には最高賞の県展賞を受賞。日本美術院展においては，昭和63年から今日までに20回入選し，特待に推挙される。平成元年からは県展日本画部門の審査員を務め，同12年には千葉県美術会理事，同18年から現職。千葉県美術会役員として県展運営及び後進の育成に尽力し，本県の芸術・文化の進展に寄与した功績は大である。

千葉伝統郷土料理研究会会長 杉崎幸子

昭和58年から役員として千葉伝統郷土料理研究会の運営に携わり，平成29年に会長に就任。講演会や執筆活動，太巻きずしの試食・試作体験指導による食育推進活動や各種国際交流活動を通じて，伝統郷土料理の認知度向上に取り組んだ。また，太巻き祭りずしデザインコンテストを開催するなど，多様な活動を展開した。伝統郷土料理を通じて，本県の芸術文化振興に寄与した功績は大である。

千葉県三曲協会会長 鈴木璋子

平成5年から千葉県三曲協会理事として協会の運営に携わり，副会長を経て，同25年から会長に就任し，邦楽の発展に貢献した。特に，学校教育における文化芸術活動の充実に積極的に取り組み，県内の小中学校に直接出向いて子供たちに邦楽の演奏体験と鑑賞の場を提供するなど，日本の伝統音楽の魅力を後世に伝える活動に尽力した。三曲を通じて，本県の芸術文化振興に寄与した功績は大である。

前千葉県文化財保護審議会委員 丸山 純

昭和54年より千葉大学で教育・研究に携わり、佐倉の武家屋敷、佐原の民家と街並みの調査を担当する一方、昭和60年から市原市、昭和62年から浦安市、平成9年から八千代市の文化財審議会委員を務め、3市より教育功労賞を受賞した。浦安市郷土博物館の建設にあたっては、古民家の移築復原を主導した。平成24年から6年間にわたって、千葉県文化財保護審議会委員として県内各地の文化財建造物について指導し、平成27年からは千葉県建築士会講師として後進の育成に尽力するなど、その功績は大である。

千葉県文化財保護指導委員 杉原 賢一

昭和45年より松戸市立常盤平第二小学校を初任校に東葛飾地区の小中学校教諭、教頭として教鞭をとる傍ら、昭和56年より37年の長きにわたって千葉県文化財保護指導委員として委嘱を受け、主に東葛飾・印旛地区に所在する国指定史跡や埋蔵文化財包蔵地の巡視活動に従事し、日本史の専門的な知識に基づいて適切な報告を行うとともに、埋蔵文化財の保護に尽力している。現在も継続して従事し、精力的な巡視活動を続けており、本県の文化財保護に寄与した功績は大である。

千葉県指定無形文化財「武術 天真正伝香取神道流」保持者 飯篠 快貞

室町時代中期に飯篠長威斎家直によって興された、古武道天真正伝香取神道流の第20代宗家を継承し、香取市に道場を開いて、トンボ伝書と呼ばれる極意書とともに、武芸十八般の源流ともいわれる多彩な型を今に伝えている。昭和35年6月3日に「天真正伝香取神道流の型」として千葉県無形文化財に指定され、その後58年の長きにわたって香取神宮など寺社の祭礼や各種古武道大会で演武を披露するなど、公開・普及にも努めており、本県の無形文化財の保護に寄与した功績は大である。

市川市文化財保護審議会会長 日塔 和彦

昭和47年より文化庁文化財保護部建造物課、財団法人文化財建造物保存技術協会において有形文化財（建造物）の保存に携わる傍ら、平成10年より市川市文化財保護審議会委員、同22年からは会長を務めている。平成18年からは野田市、同19年からは八千代市、同20年からは流山市と館山市、同21年からは袖ヶ浦市の各文化財保護審議会でも委員を務め、有形文化財（建造物）を中心に、各市の文化財保護に重要な提言を行っており、本県の文化財保護の推進に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

神崎町文化協会

昭和63年の設立以来、文化活動の実践を通して町民の文化水準を高め、神崎町の発展に寄与することを目的に活動を続け、同町の文化振興の基盤を支えてきた。文化祭の企画運営に参画し、文化祭を多くの町民による日頃の活動成果発表の場として、同町の文化振興に寄与してきた。また、平成13年から千葉県芸術文化団体協議会に加盟し、同町にとどまらない幅広い文化振興に尽力し、本県の芸術文化振興に寄与した功績は大である。

加曽利貝塚博物館友の会

昭和38年、加曽利貝塚を開発から守り保存することを目的に発足した「加曽利貝塚を守る会」が前身。昭和41年、加曽利貝塚博物館開館にあわせて「加曽利貝塚博物館友の会」に改称。加曽利貝塚の国史跡指定や博物館事業への援助を継続し、博物館と連携して会報「貝塚」の発行や講演会・文化財めぐりの会・遺跡見学会の開催やイベント協力など、加曽利貝塚の普及・啓発活動を行っている。平成28年に千葉市より特定非営利活動法人に認証された。平成29年の国特別史跡指定にあたっては、埋蔵文化財保護の歴史上特筆すべき活動として高く評価されており、本県及び千葉市の文化財保護に寄与した功績は大である。

熊野神社神楽保存会

昭和55年に千葉県無形民俗文化財に指定された「熊野神社の神楽」の保持団体。毎年春分の日に演じられる神楽で、元禄時代に現在の形に整えられたといわれ、演技・演奏とも太々神楽の古格をよく保持するとともに、農村信仰をも融合した地方的特色を持つ。保存会は、千葉県無形民俗文化財指定以来38年の長きにわたって同神楽を継承し、現在も約30名の会員によって活発な活動を行っており、千葉県指定文化財保持団体として、本県の文化財保護に寄与した功績は大である。

4 社会教育の部

(1) 個人の部

ガールスカウト千葉県連盟連盟長 高瀬 誠子

昭和56年にガールスカウト千葉県第38団に所属した。その後、4団を転団し、指導者として少女の健全育成に尽力した。現在も団委員長を務め、団運営に取り組んでいる。その間、ガールスカウト千葉地区協議会の会計、書記、副会長、会長を歴任した。また、平成15年からガールスカウト千葉県連盟役員として書記4年、副連盟長2年、連盟長3年を務め、ガールスカウトの進展に寄与した功績は大である。

元千葉県ユネスコ連絡協議会会長 遠藤 茂勝

平成2年に船橋ユネスコ協会設立と同時に会長に就任し、同年から現在まで28年間、千葉県ユネスコ連絡協議会理事を務める。平成23・24年、千葉県ユネスコ連絡協議会副会長、同25・26年、同会長を務める。平成24年に「第29回千葉県ユネスコ大会 in 船橋」を主管した。ユネスコの「人のこころの中に平和のとりでを築く」という理念を地域の中に広げ、学校にも働きかけることで地域教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元千葉県高等学校PTA連合会会長 大谷 岩男

平成14年から2年間、市川市立南新浜小学校PTA会長を務める。その後、平成22年、千葉県立市川北高等学校PTA副会長、同23年、市川昂高等学校PTA副会長、同28年から2年間、行徳高等学校PTA副会長、現在、同校PTA会長として各校のPTA活動を牽引している。また、平成29年、千葉県高等学校PTA連合会会長として、本県の社会教育・家庭教育の充実及び学校教育との連携を通じ、青少年の健全育成の進展に貢献した功績は大である。

元千葉県公民館連絡協議会事務局長 千藤 尚志

平成7年から千葉県公民館連絡協議会の事務局を通算8年にわたり務めた。平成8年からは事務局長を務め、県内公民館の振興に大きく貢献した。特に、平成8年に行われた第38回関東甲信越静公民館研究大会千葉大会では事務局長として中心的な役割を果たした。また、平成25年以降は、千葉県社会教育委員及び千葉県生涯学習審議会委員を4年間務めるとともに、千葉県社会教育委員連絡協議会副会長として本県の社会教育の振興と生涯学習の推進に寄与した功績は大である。

千葉県子ども会育成連絡会会長 田原 洋子

昭和53年に千葉県出洲港子ども会の代表者となる。以来、千葉県子ども会の活動に取り組む。平成11年に、千葉県子ども会育成連絡会副会長に就任し、同15年に会長に就任以降は現在に至るまで、子ども会の充実・発展に尽力する。平成18年に千葉県子ども会育成連合会の理事・安全指導部長に就任、同21年から同27年まで同連合会理事を務めた。千葉県子ども会育成連合会の各事業の企画・運営に尽力し、県内の青少年健全育成に寄与した功績は大である。

日本ボーイスカウト千葉県連盟理事長 伊藤 知

平成17年に日本ボーイスカウト千葉県連盟理事兼信仰奨励委員長に就任。平成19年、同理事兼国際委員長に就任。平成21年、同副理事長兼国際委員長兼第15回日本ジャンボリー実行委員長に就任。指導者の国際化に貢献した。平成23年から同27年まで同県コミッショナーを務める。指導者の育成と指導力向上に尽力した。平成29年6月から現職を務める。これらの実績は高く評価されており、本県のボーイスカウト運動の普及・発展に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

鋸南町子ども会育成連盟

昭和42年設立。以来様々な体験活動の実施，異年齢集団活動を通じて「地域の未来を担うリーダーの育成」や「生きる力を育む」ことに取り組む。ジュニア・リーダー研修会は年2回実施。リーダーとしての資質向上に取り組む。体験活動では，デイキャンプでの野外レクや，野外炊飯などを行い，子供たちと地域住民が一体となる取組をし，社会性や協調性，郷土愛を育んだ。平成29年からは新しく「富士のさとチャレンジサマーキャンプ」も実施している。リーダーの育成や体験事業等の活動は社会教育の推進・地域の教育力向上に寄与し，その功績は大である。

5 学校教育の部

(1) 個人の部

ア 県立学校

千葉県立千葉女子高等学校長 山崎 成夫

昭和56年、千葉県立国分高等学校教諭。船橋豊富高等学校教諭、千葉女子高等学校教諭、教育庁体育課副主幹、同指導主事、船橋市立船橋高等学校教頭、教育庁体育課主幹、同スポーツ振興室長を経て、平成25年、船橋市立船橋高等学校長。その後、教育庁体育課長となり、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立検見川高等学校長 圓城寺 一雄

昭和56年、千葉県立佐倉東高等学校教諭。生浜高等学校教諭、布佐高等学校教諭、姉崎高等学校教諭、教育庁葛南教育事務所指導主事、同体育課指導主事、沼南高柳高等学校教頭を経て、平成25年、成田市立中台中学校長。その後、千葉県立多古高等学校長となり、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉北高等学校長 荻野 清隆

昭和57年、千葉県立泉高等学校教諭。検見川高等学校教諭、八千代西高等学校教諭、船橋高等学校教諭、松戸南高等学校教諭、佐原高等学校教頭、船橋法典高等学校教頭を経て、平成26年、柏市立光ヶ丘中学校長。その後、平成28年から現職。この間、学校経営に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立津田沼高等学校長 安田 一夫

昭和57年、千葉県立千葉南高等学校教諭。八千代高等学校教諭、千城台高等学校教諭、生浜高等学校教諭、市川南高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、同教育政策課副主幹、八千代高等学校教頭、教育庁指導課主任指導主事、千葉県総合教育センター学力調査部長を経て、平成24年、四街道高等学校長。その後、平成27年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立国府台高等学校長 石塚 由乙

昭和60年、千葉県立鎌ヶ谷高等学校教諭。船橋高等学校教諭、千葉県子どもと親のサポートセンター指導主事、教育庁学校保健課指導主事、千葉西高等学校教頭、千葉県子どもと親のサポートセンター主任指導主事、同主席研究指導主事、船橋高等学校副校長を経て、平成26年、市川特別支援学校長。その後、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、音楽科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立市川昂高等学校長 大嶋 一夫

昭和57年、千葉県立柏高等学校実習助手。上総高等学校教諭、流山北高等学校教諭、小金高等学校教諭、市川工業高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、同教育総務課副主幹、同教育政策課副主幹、清水高等学校教頭、千葉市教育委員会青少年補導センター主査、同学事課指導主事、千葉県立松戸南高等学校副校長を経て、平成26年、松戸市立松戸高等学校長。その後、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立成田国際高等学校長 渡邊 信治

昭和56年、千葉県立鎌ヶ谷西高等学校教諭。松戸東高等学校教諭、千葉市立稲毛高等学校教諭、千葉県立東葛飾高等学校教諭、千葉県総合教育センター研究指導主事、教育庁指導課指導主事、独立行政法人教員研修センター主任指導主事、同主幹、流山おおたかの森高等学校教頭、千葉県総合教育センター次長を経て、平成26年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、英語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立大網高等学校長 岩崎 章

昭和57年、千葉県立安房水産高等学校教諭。袖ヶ浦高等学校教諭、木更津高等学校教諭、千葉県総合教育センター指導主事、同研究指導主事、教育庁指導課指導主事、天羽高等学校教頭、千葉県総合教育センター主任指導主事、同主席研究指導主事、同学力調査部長を経て、平成26年、生浜高等学校長。その後、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立大多喜高等学校長 近藤 克之

昭和58年、千葉県立実籾高等学校教諭。大多喜女子高等学校教諭、長狭高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、安房拓心高等学校教頭、千葉県総合教育センター主任指導主事、同学力調査部長を経て、平成25年、岬高等学校長。その後、千葉県立安房拓心高等学校長となり、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立長狭高等学校長 鈴木希彦

昭和57年、千葉県立小見川高等学校教諭。市川西高等学校教諭、岬高等学校教諭、長狭高等学校教諭、千葉県総合教育センター指導主事、教育庁南房総教育事務所指導主事、長狭高等学校教頭、千葉県総合教育センター主任指導主事、同主席研究指導主事を経て、平成26年、鴨川市立鴨川中学校長。その後、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立木更津高等学校長 廣部泰紀

昭和57年、千葉県立上総高等学校教諭。君津商業高等学校教諭、姉崎高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、館山総合高等学校教頭、教育庁指導課主任指導主事、同主席指導主事、同副参事兼学力向上室長を経て、平成26年、君津高等学校長。その後、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立市原八幡高等学校長 石塚和美

昭和57年、千葉県立行徳高等学校教諭。市川西高等学校教諭、長狭高等学校教諭、安房南高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、勝浦若潮高等学校教頭、安房高等学校教頭を経て、平成26年、勝浦若潮高等学校長。その後、平成27年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立松戸特別支援学校長 伊藤俊和

昭和57年、松戸市立第六中学校教諭。管内中学校教諭、千葉県立松戸養護学校教諭、八千代養護学校教諭、障害者高等技術専門校副主幹、千葉特別支援学校教頭、市川特別支援学校教頭、千葉聾学校副校長を経て、平成26年、野田特別支援学校長。その後、千葉県総合教育センター特別支援教育部長となり、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉高等学校事務主幹 萩原文雄

昭和53年、千葉県立千葉聾学校主事。京葉工業高等学校主任主事、教育庁文化課副主査、千葉県文化財センターに派遣。千葉県総合教育センター主査、同国際総合水泳場庶務課長等を経て、平成18年、柏中央高等学校事務長。その後、県立学校事務長を歴任し、平成28年から現職。この間、よく校長を補佐し、円滑な学校事務の運営に努め、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉東高等学校事務主幹 佐藤 俊一

昭和52年、柏市立西原小学校主事。千葉県教育委員会東葛飾地方出張所主事、公立学校共済組合千葉支部に派遣。千葉県立犢橋高等学校主任主事、千葉高等学校副主査、市川工業高等学校主査等を経て、平成20年、船橋旭高等学校事務長。その後、県立学校事務長を歴任し、平成28年から現職。この間、よく校長を補佐し、円滑な学校事務の運営に努め、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

イ 市町村立学校

船橋市立小栗原小学校長 辰馬 令

昭和56年、船橋市立三山小学校教諭。管内小学校教諭，船橋市教育委員会学務課副主査，同総合教育センター副主査，同保健体育課副主査，船橋市立大穴小学校教頭，教育庁学校保健課指導主事，同学校安全保健課指導主事を経て，平成22年，船橋市立古和釜小学校長。その後，教育庁学校安全保健課保健給食室給食班長，同課安全室長を歴任し，平成27年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，保健体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立中部小学校長 三輪 睦子

昭和56年，野田市立清水台小学校教諭。管内小学校教諭，松戸市立高木小学校教頭，管内小学校教頭，松戸市教育委員会指導課課長補佐を経て，平成23年，松戸市立上本郷第二小学校長。その後，教育庁東葛飾教育事務所主席指導主事，同指導室長，松戸市立常盤平第一小学校長を歴任し，平成29年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，算数・数学科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立松ヶ丘小学校長 山口 明

昭和58年，松戸市立小金中学校教諭。管内中学校教諭，国立妙高少年自然の家専門職員，松戸市教育委員会生涯学習本部企画管理室指導主事，松戸市立新松戸北中学校教頭，松戸市教育委員会企画管理室長補佐を経て，平成22年，松戸市立上本郷第二小学校長。その後，松戸市教育委員会生涯学習本部企画管理室参事補，同教育企画課参事補，同教育研究所長，同学校教育部長を歴任し，平成28年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，社会科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

野田市立中央小学校長 長谷川 昌男

昭和59年，野田市立中央小学校教諭。管内小学校教諭，野田市教育委員会学校教育課管理主事，野田市立みずき小学校教頭，教育庁教職員課管理主事を経て，平成23年，野田市立尾崎小学校長。その後，教育庁東葛飾教育事務所管理課長，野田市教育委員会学校教育部長を歴任し，平成29年から現職。学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，算数科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

佐倉市立佐倉小学校長 佐久間 保 男

昭和56年、印旛郡栄町立安食小学校助教諭。管内小学校教諭、教育庁義務教育課管理主事、印西市立高花小学校教頭、管内小学校教頭、佐倉市教育委員会学務課副主幹、同主幹、同教育センター所長を経て、平成23年、佐倉市立間野台小学校長。その後、教育庁北総教育事務所主席指導主事、同指導室長、佐倉市教育委員会学務課長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立公津の杜小学校長 江 邨 一 男

昭和57年、成田市立橋賀台小学校教諭。管内小学校教諭、成田市教育委員会学校教育課指導主事、同学務課管理主事、成田市立神宮寺小学校教頭、教育庁指導課指導主事を経て、平成21年、成田市立吾妻小学校長。その後、教育庁指導課主幹、同北総教育事務所指導室長、成田市教育委員会学務課長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立南小学校長 豊 田 充

昭和58年、四街道市立みそら小学校教諭。管内小学校教諭、教育庁学校保健課指導主事、同総務文書課主査補、同指導課指導主事、四街道市立みそら小学校教頭、管内小学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事、千葉県警察本部生活安全部少年課課長補佐、千葉県子どもと親のサポートセンター研究指導主事を経て、平成24年、四街道市立八木原小学校長。その後、四街道市青少年育成センター所長、同教育委員会教育部長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立栗山小学校長 根 本 悦 光

昭和57年、佐倉市立千代田小学校教諭。管内小学校教諭、八街市教育委員会学校教育課指導主事、千葉県立中央博物館教育普及課上席研究員、八街市立朝陽小学校教頭、教育庁北総教育事務所指導主事、同管理主事を経て、平成22年、成田市立平成小学校長。その後、教育庁学校安全保健課主席指導主事、同教職員課主幹、同東上総教育事務所長、八街市立実住小学校長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

白井市立池の上小学校長 田 代 成 司

昭和58年、佐倉市立佐倉中学校教諭。管内中学校教諭、白井市教育委員会学校教育課指導主事、白井市立南山中学校教頭、教育庁北総教育事務所指導主事を経て、平成24年、白井市立清水口小学校長。その後、白井市教育委員会教育部長となり、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立佐原小学校長 小川 泰 求

昭和58年、香取郡下総町立小御門小学校教諭。管内小学校教諭，下総町立小御門小学校教頭，千葉県総合教育センター研究指導主事，教育庁学校保健課指導主事，同北総教育事務所管理主事を経て，平成23年，香取郡神崎町立米沢小学校長。その後，教育庁北総教育事務所主席管理主事，同管理課長，同次長を歴任し，平成28年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，健康教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立小見川中央小学校長 多田 成 明

昭和57年，香取郡小見川町立西小学校教諭。管内小学校教諭，香取郡東庄町立東城小学校教頭，教育庁北総教育事務所管理主事を経て，平成21年，香取市立山倉小学校長。その後，教育庁北総教育事務所主任管理主事，同主席管理主事，同教職員課主席管理主事，同県立学校改革推進課主幹を歴任し，平成28年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，道德教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立小見川北小学校長 増田 進 一

昭和57年，東葛飾郡関宿町立関宿中学校教諭。管内小中学校教諭，教育庁香取地方出張所社会教育主事，香取郡下総町立下総中学校教頭，千葉県立水郷小見川少年自然の家社会教育主事，教育庁北総教育事務所管理主事を経て，平成22年，香取市立新島中学校長。その後，香取市教育委員会学校教育課副参事，同学校教育課長を歴任し，平成29年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，社会科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立八都小学校長 石田 勝 己

昭和57年，佐原市立佐原小学校教諭。教育庁総務企画課副主査，同義務教育課管理主事，同総務文書課主査補，同主査，佐原市立福田小学校教頭，教育庁教育総務課副主幹，同教職員課管理主事を経て，平成20年，香取市立神南小学校長。その後，教育庁教職員課主任管理主事，同学校安全保健課主幹，香取市立新島小学校長を歴任し，平成27年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，保健安全教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

銚子市立飯沼小学校長 永 綱 英 行

昭和58年，東葛飾郡関宿町立木間ヶ瀬中学校教諭。管内中学校教諭，銚子市教育委員会指導室指導主事，教育庁指導課指導主事，銚子市立第四中学校教頭，銚子市教育委員会学校教育課管理主事を経て，平成22年，銚子市立第三中学校長。その後，銚子市教育委員会学校教育課長となり，平成27年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，英語科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立東小学校長 高山裕司

昭和57年、東金市立東小学校教諭。管内小学校教諭、東金市立東小学校教頭、東金市教育委員会学校教育課主幹、東金市立丘山小学校教頭を経て、平成24年、山武郡大網白里町立増穂小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所指導室山武分室長、同指導室長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数・数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立城西小学校長 池田優子

昭和57年、山武郡大網白里町立白里小学校教諭。管内小学校教諭、大網白里町立大網東小学校教頭、教育庁東上総教育事務所指導主事、千葉県子どもと親のサポートセンター研究指導主事を経て、平成24年、山武市立日向小学校長。その後、教育庁指導課人権教育室長を経て、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数・数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立茂原小学校長 中村祥一

昭和57年、長生郡一宮町立一宮小学校教諭。県内小学校教諭、千葉県教育委員会庶務課主任主事、同総務企画課副主査、教育庁義務教育課管理主事、同企画広報課主査、同長生地方出張所管理主事、茂原市立東部小学校教頭、教育庁県立学校改革推進課副主幹、千葉県総合教育センター研究指導主事を経て、平成22年、長生郡白子町立白潟小学校長。その後、教育庁特別支援教育課障害児支援室長、同南房総教育事務所長、千葉県立中央博物館長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、道德教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

館山市立北条小学校長 田中順勝

昭和57年、八千代市立南高津小学校教諭。県内小中学校教諭、教育庁安房地方出張所管理主事、安房郡丸山町立南小学校教頭、教育庁教職員課管理主事を経て、平成22年、館山市立館野小学校長。その後、教育庁学校安全保健課主幹、館山市教育委員会学校教育課長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鋸南町立鋸南小学校長 鈴木等

昭和58年、市原市立若葉小学校教諭。管内小学校教諭、南房総市立朝夷小学校教頭、館山市教育委員会学校教育課主任指導主事を経て、平成25年、館山市立船形小学校長。その後、教育庁南房総教育事務所主席指導主事、同指導室安房分室長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

君津市立北子安小学校長 粕谷 哲也

昭和59年、木更津市立畑沢小学校教諭。管内小学校教諭、君津市教育委員会学校教育課指導主事、君津市立小糸小学校教頭、教育庁南房総教育事務所管理主事を経て、平成25年、君津市立中小学校長。その後、君津市教育委員会副参事となり、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別活動の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

袖ヶ浦市立蔵波小学校長 鈴木 茂昭

昭和54年、木更津市立祇園小学校教諭。管内小学校教諭、教育庁君津地方出張所管理主事、総務部文書課主査補、教育庁指導課主査補、同義務教育課管理主事、袖ヶ浦市立平岡小学校教頭、袖ヶ浦市教育委員会学校教育課主幹、千葉県総合教育センター研究指導主事を経て、平成23年、市原市立東海小学校長。その後、袖ヶ浦市立根形小学校長となり、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立八幡小学校長 天野 桂

昭和57年、市原市立姉崎小学校教諭。管内小学校教諭、市原市立八幡小学校教頭、教育庁南房総教育事務所指導主事を経て、平成25年、八街市立八街北小学校長。その後、市原市教育委員会生涯学習課青少年指導センター所長、同指導課長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立ちはら台桜小学校長 御園生 文雄

昭和57年、市原市立五井中学校教諭。管内中学校教諭、市原市教育委員会学校教育課教職員係長、市原市立千種中学校教頭、市原市教育委員会学校教育課副主幹を経て、平成19年、市原市立国分寺台西小学校長。その後、市原市教育委員会指導課主任指導主事、教育庁指導課主任指導主事、同教職員課主任管理主事、同指導課生徒指導室長、市原市教育委員会学校教育部次長、千葉県立京葉高等学校長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立登戸小学校長 山本 幸人

昭和57年、千葉市立高浜第二小学校教諭。管内小学校教諭、千葉市立あすみが丘小学校教頭、千葉市教育委員会指導課指導主事を経て、平成22年、千葉市立柏台小学校長。その後、千葉市教育委員会指導課主幹、同課長を歴任し、平成27年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立緑町小学校長 池田 亘 宏

昭和57年、千葉市立花見川第三小学校教諭。管内小中学校教諭、コロンバス補習授業校教諭、千葉市教育委員会教育センター指導主事、千葉市立小中台小学校教頭、ピッツバーグ補習授業校教頭、千葉市教育委員会指導課指導主事を経て、平成21年、千葉市立高浜第二小学校長。その後、千葉市教育委員会企画課主幹、同統括管理主事、同教育センター副所長、同所長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国際理解教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立宮本中学校長 秋山 孝

昭和56年、船橋市立宮本中学校教諭。管内中学校教諭、商工労働部職業能力開発課副主査、千葉県総合教育センター充て指導主事、教育庁振興課主査補、同社会教育課主査補、同主査、同社会教育主事、同教育総務課主査、同副主幹、船橋市八木が谷公民館主査、船橋市立豊富小学校教頭、船橋市教育委員会総務課課長補佐、同指導課課長補佐を経て、平成25年、船橋市立若松中学校長。その後、船橋市教育委員会学校教育部長、同教育次長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立葛飾中学校長 古橋 章 光

昭和57年、船橋市立七林中学校教諭。県内中学校教諭、船橋市総合教育センター副主査、教育庁教職員課管理主事、船橋市立二宮中学校教頭、教育庁教育政策課副主幹を経て、平成22年、船橋市立芝山東小学校長。その後、船橋市教育委員会参事兼学務課長、同学校教育部長、同教育次長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、英語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

浦安市立日の出中学校長 本山 哲 也

昭和57年、浦安市立北部小学校教諭。管内小学校教諭、浦安市教育委員会生涯学習課指導主事、同郷土博物館主査、教育庁船橋地方出張所管理主事、同葛南教育事務所管理主事、浦安市立日の出南小学校教頭、浦安市教育委員会指導課教育研究センター所長を経て、平成23年、浦安市立日の出小学校長。その後、浦安市教育委員会指導課長、教育庁葛南教育事務所管理課長、同次長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

柏市立柏第四中学校長 宮 本 知 史

昭和56年、千葉県立市原養護学校教諭。県内中学校教諭、柏市立松葉中学校教頭、柏市教育委員会少年補導センター所長を経て、平成22年、柏市立西原中学校長。その後、教育庁東葛飾教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

我孫子市立白山中学校長 田 中 聡

昭和59年、野田市立第二中学校教諭。管内中学校教諭、我孫子市立湖北中学校教頭、我孫子市教育委員会総務課課長補佐、同指導課長を経て、平成24年、我孫子市立湖北中学校長。その後、教育庁東葛飾教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ケ谷市立鎌ケ谷中学校長 小 林 修 一

昭和57年、東葛飾郡沼南町立高柳中学校教諭。管内中学校教諭、鎌ケ谷市立第二中学校教頭、鎌ケ谷市教育委員会学校教育課主幹を経て、平成21年、鎌ケ谷市立第五中学校長。その後、鎌ケ谷市教育委員会副参事、その後、教育庁東葛飾教育事務所管理課主席管理主事、同管理課長、同次長を歴任し、平成29年度から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、学校危機管理の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立四街道中学校長 中 嶋 英 博

昭和60年、佐倉市立白井中学校教諭。教育庁印旛地方出張所指導主事、四街道市立四街道西中学校教頭、管内中学校教頭、千葉県総合教育センター研究指導主事を経て、平成23年、四街道市立四街道北中学校長。その後、四街道市教育委員会参事兼学務課長となり、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立四街道西中学校長 安 西 啓 雄

昭和56年、佐倉市立志津中学校教諭。管内中学校教諭、佐倉市教育委員会学校教育課指導主事、佐倉市立佐倉中学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事を経て、平成21年、佐倉市立上志津中学校長。その後、佐倉市教育委員会指導課長、同学務課長、千葉県立佐倉東高等学校長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立佐原中学校長 金子基一

昭和58年、印旛郡富里村立富里中学校教諭。管内中学校教諭，教育庁香取地方出張所管理主事，佐原市立瑞穂小学校教頭，教育庁北総教育事務所管理主事，同教職員課管理主事を経て，平成20年，成田市立豊住中学校長。その後，成田市立西中学校長，香取市教育委員会学校教育課副参事，同学校教育課長，香取市立佐原第三中学校長を歴任し，平成28年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立東中学校長 鵜澤 智

昭和56年，茂原市立富士見中学校教諭。管内小中学校教諭，茂原市教育委員会生涯学習課主査，茂原市立南中学校教頭，管内中学校教頭，教育庁生涯学習課社会教育施設班長を経て，平成24年，茂原市立富士見中学校長。その後，教育庁生涯学習課学校・家庭・地域連携室長となり，平成28年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，保健体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大多喜町立大多喜中学校長 堀江 秀一

昭和56年，夷隅郡岬町立岬中学校教諭。県内中学校教諭，教育庁東上総教育事務所社会教育主事，千葉県立君津亀山少年自然の家社会教育主事，いすみ市立岬中学校教頭，教育庁東上総教育事務所指導主事，大多喜町教育委員会教育課主査を経て，平成25年，夷隅郡御宿町立御宿中学校長。その後，教育庁東上総教育事務所指導室夷隅分室長となり，平成28年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，数学科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

館山市立房南中学校長 小柴 信弘

昭和56年，流山市立常磐松中学校教諭。県内中学校教諭，南房総市立白浜中学校教頭，教育庁指導課指導主事を経て，平成24年，南房総市立和田中学校長。その後，教育庁南房総教育事務所指導室安房分室長，館山市教育委員会教育総務課長を歴任し，平成29年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，道徳教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

富津市立天羽東中学校長 鈴木 充

昭和57年，君津市立周西中学校教諭。管内中学校教諭，教育庁君津地方出張所指導主事，木更津市立木更津第二中学校教頭，管内中学校教頭，教育庁南房総教育事務所指導主事を経て，平成24年，成田市立遠山中学校長。その後，教育庁南房総教育事務所主席指導主事，同指導室長を歴任し，平成29年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立八幡中学校長 齋藤和夫

昭和56年、市原市立加茂中学校教諭。管内中学校教諭、市原市教育委員会青少年課青少年指導センター副主査、市原市立ちはら台南中学校教頭、市原市教育委員会指導課青少年指導センター副主幹を経て、平成22年、市原市立千種中学校長。その後、教育庁南房総教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長、市原市教育委員会学校教育部長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立緑町中学校長 大野治充

昭和56年、千葉市立幸町第二中学校教諭。管内中学校教諭、千葉市教育委員会青少年補導センター主査、千葉市立千城台南中学校教頭、千葉市教育委員会教職員課管理主事を経て、平成21年、千葉市立土気南中学校長。その後、千葉市教育委員会南部青少年センター所長、同こども未来局健全育成課青少年サポートセンター所長、同教育委員会教職員課担当課長、同県費移譲課長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立小中台中学校長 渡邊博典

昭和57年、千葉市立草野中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁文化課研究員、同上席研究員、同文化財課上席研究員、千葉市教育委員会教育センター指導主事、同青少年課主査、千葉市立幕張本郷中学校教頭、千葉市教育委員会青少年課課長補佐、同こども未来局健全育成課課長補佐を経て、平成23年、千葉市立磯辺第一中学校長。その後、千葉市こども未来局健全育成課長、同教育委員会学事課長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

千葉県立幕張総合高等学校

平成8年、千葉県立幕張東・幕張西・幕張北高等学校の三校を統合し開校。平成26年度から同28年度には、文部科学省の「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育充実事業」に取り組み、「特別の教育課程」に関する研究を行い、特別支援教育の充実を図った。平成29年度は千葉県教育委員会の研究指定を受け、「高等学校における『通級による指導』の準備」に取り組んだ。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立流山おおたかの森高等学校

平成20年、千葉県立流山中央・流山東高等学校を統合し開校。平成21年度に「英語教育改善のための調査研究事業」に指定されて以来、英語教育推進校として、毎年、文部科学省より研究指定を受け、その成果を県内に普及している。平成26年度から同29年度には、文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を流山市とともに受け、小中高等学校の系統性のある教育課程及び評価方法の研究開発を行った。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立我孫子東高等学校

平成23年、千葉県立布佐・湖北高等学校を統合し開校。キャリア教育推進校として地域社会との連携を深めつつ、先進的な取組をし、平成24年度文部科学大臣表彰を受けている。平成28・29年度に教職員支援機構の次世代型教育推進センターから「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」実践フィールド校、並びに千葉県教育委員会から研究指定校として指定を受け、研究・実践を進めた。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立佐原高等学校

明治33年、千葉県佐原中學校として開校。平成26年度から同28年度には、文部科学省の「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育充実事業」に取り組み、平成29年度は千葉県教育委員会の研究指定を受け、「高等学校における『通級による指導』の準備」に取り組んだ。高等学校における特別支援教育の充実及び高等学校における「通級による指導」に向けた取組は高く評価されており、本県高等学校における特別支援教育の進展に寄与したその功績は大である。

千葉県立桜が丘特別支援学校

昭和35年、千葉市立都小学校、同加曾利中学校の施設内特殊学級として発足した後、昭和36年、千葉県立桜が丘養護学校として開校。平成25・26年度千葉県教育委員会研究指定により、肢体不自由のある児童生徒の一貫性のある指導について成果をあげた。また、平成26年度から「通級による指導」を開始し、小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒や指導する教職員への積極的な支援を巡回指導を中心に広範囲に展開し、地域において必要な支援が受けられるように努めている。さらに、平成28年度から特別支援学校では全国で初めてとなる、ユネスコスクールのサステイナブルスクールとして、積極的に実践を世界へ発信しており、本県特別支援教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉盲学校

明治45年、千葉訓盲院として開校。大正13年、千葉盲学校と称する。以来、千葉県における視覚障害教育の拠点校としての役割を果たしてきた。平成22年度に小・中学校に在籍する弱視児への支援として「通級による指導」を開始した。平成24年度に「千葉県視覚障害教育ネットワーク推進連絡協議会（eye あいねっと）」を立ち上げ、県内のネットワークを形成し、地域の特別支援学校への助言など視覚障害のセンター校として積極的に取り組んでいる。これらの教育実践は、高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立高郷小学校

昭和43年開校。以来、学校教育目標「社会の変化に対応し、心豊かにたくましく生きる児童の育成」を実現するために邁進してきた。教育研究の分野においては、平成19・21年度に船橋市教育委員会から生活科・理科研究奨励校の指定を受け、平成26年度から同28年度には、船橋市体育科研究指定校となり、実践研究を行った。平成29年度には全国学校体育研究優良校の表彰を受けた。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

浦安市立東小学校

昭和56年開校。平成26年度から同28年度には、浦安中学校区の小中学校及び高等学校と連携して、体育科の研究を進めるとともに、体育理論・実技研修やインクルーシブ教育システムの研修を行った。平成28年度には「千葉県学校体育研究大会浦安大会」の開催校として、それまでの研究の成果等を発表した。さらに、平成29年度からは千葉県の体育科研究校の指定を受け、これまでの研究を継続・発展させながら取り組んでおり、本県の体育教育の進展に寄与した功績は大である。

流山市立鱒ヶ崎小学校

昭和50年開校。以来、保護者・地域の協力を得ながら、先進的な取組をし、研究実績を上げている。平成26年度から同29年度には、流山市が文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、その推進校として、「みんなとかかわり、生き生きと取り組む児童の育成」の研究テーマのもと、英語の教科化に向け、低・中学年での外国語活動、高学年での外国語科の在り方の研究開発を行った。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

流山市立西初石小学校

昭和52年開校。以来、隣接する中学校・高等学校との連携を図った、先進的な取組をし、研究実績を上げている。平成26年度から同29年度には、流山市が文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、その推進校として、「グローバル化に対応した英語教育への第一歩～コミュニケーション活動を通して、進んで自分を表現しよう～」の研究テーマのもと、研究開発を行った。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

流山市立南流山小学校

昭和58年開校。以来、急速に地域が発展する中で、先進的な取組をし、研究実績を上げている。平成26年度から同29年度には、流山市が文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、その推進校として、「進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～中学校との連携を考えた小学校英語科の在り方を目指して～」の研究テーマのもと、研究開発を行った。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

我孫子市立我孫子第一小学校

明治6年開校。以来、新たな学びに関して、授業改善・学力向上を図るために、地域社会と連携を深めつつ、先進的な取組をし、研究実績を上げている。平成27年度から同29年度には、教職員支援機構の次世代型教育推進センターから、「新たな学びに関する教員の資質能力の向上のためのプロジェクト」における実践フィールド校として研究指定を受け、平成29年度、全国公開研究会を実施した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立中央小学校

昭和41年開校。以来、地域社会との連携を深めつつ、先進的な取組をし、研究実績を上げている。平成25・26年度には、国立教育政策研究所より「学習指導実践研究協力校事業」の指定を受け、生活科・総合的な学習の時間の研究に取り組んだ。平成29年度には、千葉県教育委員会の指定を受け、「学力向上交流会」会場校として、指導方法の工夫改善等に取り組んだ。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大網白里市立増穂北小学校

平成6年開校。以来、家庭・地域との連携を深めつつ、体育や食育を中心に研究実績を上げている。平成27年度には、千葉県教育委員会「夢チャレンジかなえ隊」派遣事業に取り組み、トップアスリートを講師に迎え、運動の楽しさを一層深めることができた。さらに、平成28・29年度は、千葉県教育委員会「地域における食育指導推進事業」の拠点校に指定され、平成29年度に公開研究会を開催した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立白金小学校

昭和45年開校。以来、地域と連携した防災防犯体制づくりと命を大切にする安全教育・防災教育の実践を推進し、優れた実績を上げている。火事・地震・津波等の災害に備えた危機管理意識を向上させ、自分で判断し、行動する力を育てている。平成24年度に千葉県教育委員会から「命を大切にする防災教育研究指定」を受けるとともに、平成25年度は内閣府の「防災教育チャレンジプラン」に参加した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立打瀬小学校

平成7年開校。以来、全国の先駆けとなったオープンスクールを活用し、児童の主体性を重視した教育活動を展開している。平成20年度に文部科学省の委託を受け「学校評価の充実・改善」に取り組んだ。さらに、千葉市教育委員会指定の「幼・保・小関連教育」「環境学習」「ボランティア教育」等、幅広い活動を展開している。これらの今日的な学校教育課題の解明に向けた取組は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

流山市立南流山中学校

昭和58年開校。以来、保護者・地域の協力を得ながら、先進的な取組をし、研究実績を上げている。平成26年度から同29年度には、流山市が文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、その推進校として、「自ら積極的に学び、自らの意見を発表できる生徒を育成する指導はどうあるべきか。」の研究テーマのもと、小中高等学校の系統性のある教育課程及び評価方法の研究開発を行った。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

流山市立西初石中学校

昭和60年開校。以来、地域の協力を得ながら、先進的な取組をし、研究実績を上げている。平成26年度から同29年度には、流山市が文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、その推進校として、「4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成」の研究テーマのもと、小中高等学校の系統性のある教育課程及び評価方法の研究開発を行った。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

我孫子市立我孫子中学校

昭和22年開校。以来、新たな学びに関して、授業改善・学力向上を図るために、地域社会と連携を深めつつ、先進的な取組をし、研究実績を上げている。平成27年度から同29年度には、教職員支援機構の次世代型教育推進センターから、「新たな学びに関する教員の資質能力の向上のためのプロジェクト」における実践フィールド校として研究指定を受け、平成29年度に全国公開研究会を実施した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立茂原中学校

昭和22年開校。以来、地域との連携を深めつつ、先進的な取組をし、実績を上げている。平成26年度東上総教育事務所管内「学力向上交流会」の会場校として授業公開し、平成27年度から千葉県教育委員会ホームページ「家庭学習のすすめ」サイトに「ステップアップ学習の手引き」が好事例として掲載されるなど、研究成果を県内に発信している。また、平成28年度には千葉県教育委員会「中学生・高校生との交流事業」やJOC・千葉県教育委員会『オリンピック教室』事業のキャリア教育を実践するなど、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

いすみ市立大原中学校

昭和22年開校。以来、地域の中心校として、心身ともに健康で活力ある生徒の育成に取り組んでいる。平成21年度から同23年度には、千葉県「福祉教育推進校」、平成28年度に千葉県教育委員会指定「特色ある道徳教育推進校（兼心の教育推進キャンペーン実施校）」における研究事業の公開研究会の実施、平成29年度に千葉県教育委員会指定「オリンピック・パラリンピック教育推進校」等で大きな成果を上げている。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立打瀬中学校

平成7年開校。以来、「教科センター方式」を取り入れた教育活動を展開している。平成20年度から同22年度には、文部科学省及び千葉市教育委員会の指定を受け、「思考・判断・表現力を高めるための『わかる授業』の創出」を研究主題として、学力向上に向けた学習指導法の改善に取り組んだ。また、平成21年度に関東、平成25年度に千葉県の算数・数学教育研究大会会場校として授業展開を行い、研究成果を県内外に広く発信し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。